
知的好奇心の赴くままに！

雄叡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

知的好奇心の赴くままに！

【Nコード】

N4520M

【作者名】

雄叡

【あらすじ】

自由気ままで大食らいの主人公大我が、好奇心のままに、周りの人々を巻き込みながら、自分勝手に過ごしていくお話。果たして、大我は飽くなき好奇心と食欲を満たすことができるのか！？そして、周りの人々（主にヒロイン）は、大我についていくことができるのか！？

プロローグ（前書き）

処女作となります。

まだまだ不自然な部分が多いと思うので、お気づきの点がありましたら、どんどんご指摘ください。

ブローグ

ある日の夕方頃、ひとりの男が有名ファストフード店マクナルドに入店した。夕日が逆光となり、顔を判別することはできないが、身長は180?ほどで太ってはいないが、やせてもない健康的な体つきである。

「いらつしゃいませ」

カウンターにいる店員は、いつもと変わらない満面の笑みでその男を迎える。さすがはスマイル0円をうたうだけはある。

「ご注文はいかがなさいますか？」店員はその男にたずねた。それに対して男はさして表情を変えずに言い放つ。

「全種類5つずつで」

さっきの店員の顔は見ものだっただな。

ひとり家路につく男、現在高校2年になる霧氷大我^{ムヒヨウ タイガ}は先ほど買ったハンバーガーを歩き食いしながらそんなことを考えていた。あの店での注文するのは初めてではなかったのだが、どうもあの店員は新人だったらしい。

持っていた15個目のハンバーガーを食べ終えた大我は、次のハン

バーガーを取り出そうとしてその動きを止める。

「いつまでそうしてるつもりだ？」

顔の向きは変えないまま、後ろにむかつて声をかける。

するとなにもなかったはずの空間から、突然一人の美しい少女が現れた。

年は16、7だろうか、腰にまで届きそうな漆黒の髪、身長は160ほどでスタイルもいい。なかでも顔は神に愛されているといっても過言ではないほどに整っている。

ただ、なにもしていなければまさに人形のような女の子になるであろう容姿も、その少し切れ気味の目に宿る冷たい光が印象を一変させていた。

「いつから気付いていた？」

少女はまったく動揺した素振りを見せずに問う。

「最初からだよ。あいにくこっちはそういうのは初めてじゃないんでね。さすがに見えない人間っていうのは初めてだが……」

そう、大我が『初めてではない』といったのは、突然人間が現れたことに対してではない。あとをつけられる、ということに対してだ。もちろんそれに好意的な意味があるはずもない。

「で、今回はどういう用件だ？まあ、聞かなくてもだいたいわかるが……」

そういうとはじめて大我は振り返り、少女を見つめる。

「あなたはこの世界にいてはいけない……」

少女はソプラノのよく通る、しかし感情が感じられない声で言う。
そしてふところから美しいナイフを取り出した。

「んー、あんたみたいな美人に殺されるのも悪くはないんだがなー。
この世界にも未練はないし……」

ナイフをとりだしたことにまさして驚くこともなく、大我はぼやく。
その顔は明日の天気の話をするかのように真剣みがない。

「でもなー、今日は帰ったらピザ ラでピザ食うつもりだったんだ
よ。だから、明日にして……くれるわけないか。」

大我が言い終わる前に少女はナイフを突き出して猛然と突っ込んで
きていた。

「おとなしく刺されて……」

少女はそう呟きながらナイフを振るう。その動きには一切のよどみ
がなく、何の躊躇も感じられなかった。普通の高校生ではなす術も
ないだろう。

だが、大我は普通の人間ではありえない対応を試みせた。

「痛いのは嫌いなんでね」

相変わらず緊張感が感じられない声で少女に答えると、大我は突き
出された少女の手首をつかむ。そして少女が何の反応もできない内
に、少女を放り投げた。

比喻などではない。まるでボールを扱うかのように少女を後ろに投

げたのだ。しかも10mは飛んでいる。

少女は難なく着地してみせたが、さすがに驚きを隠せない様子だ。

「…あなたほんとに人間？」

「あんたに言われたくはないよ。ま、今の力で殴られたらどうなるかぐらい想像がつくだろ？怪我したくなかったらさっさと帰りな」

大我はそういうと少女に背を向けて歩き出した。これ以上、少女に関わるつもりはないようだ。

しかし、少女はその背中を睨みつけながら、ナイフを構えなおす。

「…逃がさない」

少女は一言呟くと再び大我に突っ込んでいった。

「まったく…しょうがねえなあ」

大我はぼやきながら、少女の頭に振り向きざまのカウンターを浴びせる。

グチャッ！！

「ん……？」

おおそ人体からは想像ができない音を聞いて、大我は自分の腕を確認する。見ると少女の側頭部に当たったはずの自分の手が、人の形をした泥人形に埋まっており抜けなくなっている。

「すきあり……」

「む……！」

何が起こったのか理解するよりも早く、背後から少女の声が聞こえた。それと同時に大我の胸から刃が突き出す。

不思議と痛みはなかったが、急速に薄れていく意識の中で、自分は刺されたのだと大我は気付いた。

ピザ、食いたかったな…

大我はそんなことを考えながら、意識を手放した。

その日、霧氷大我という存在は地球上から消滅した。

プロローグ（後書き）

文章を書くって難しいんですね…

書きたいことを書けるようになるのは、まだまだ先になりそうです。
ちなみに、次回は主人公の設定が明かされる予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4520m/>

知的好奇心の赴くままに！

2010年10月10日12時59分発行